

(様式 2)
議事録番号

提出 2021 年 3 月 19 日

会合議事録

研究会名： 構造物性研究会
日 時： 2021 年 3 月 17 日 (水) 13:00～14:45
場 所： オンライン
出席者： 青柳忍, 東正樹, 大和田謙二, 河口彰吾, 鬼頭俊介, 久保田佳基,
黒岩芳弘, 小林慎太郎, 澤博, 下野聖矢, 杉本邦久, 西堀英治,
丸山隆之, 森吉千佳子
計 14 名

議題：

- ・ 散乱・回折 BL のアップグレード案について
- ・ 新分野・新領域に関する研究開発ニーズについて
- ・ 研究開発成果の展開について
- ・ SPring-8 次期計画に関する事項
- ・ 危機管理対策に関する事項
- ・ その他

議事内容：

始めに東代表より, 第 3 回 BLs アップグレード検討 WS で提案された散乱・回折ビームラインのアップグレード案について説明があった。

その後, アップグレード案および動向調査項目について質疑と自由討論とした。以下に意見を簡潔に列挙する。

・ 全体的なこととして, アップグレード案について, 細かい分野内での意見だけでなく, 全体を見渡して議論できる場があった方が良いのではないか。

・ 粉末回折, PDF についてのアップグレード案には, その場測定の拡充, ID-BL の設置など研究会から要望が盛り込まれていて, その方針に賛同できる。

・単結晶構造解析について、基本的にアップグレード案に賛同できるが、ID-BL・先端とは別に、汎用として現在の BL02B1 と同じ程度のスペックの単結晶構造解析装置があった方が良い。

・最近の研究展開と関連して、単結晶構造解析による 3d 電子軌道に占有された価電子の空間分布状態の観測の紹介があり、それをさらに発展させるためには、ID-BL において、高エネルギーで使用でき、数え落としがない、高速測定が可能な積分型検出器の導入、より High-Q のデータを測定できる回折計の再設計が重要と考えられる。

・コロナ感染予防のため来所できなくなる機会に対し、リモート測定が推進されることが望まれる。完全リモートではなく、少人数のオンサイトとリモートのハイブリッドが望ましいと考えられる。特にユーザーサポートを行うスタッフの負担は増えるので、適切な人員配置がなされることを望む。

・施設で検討されている利用制度改正について、年 6 回程度の課題募集を学術への拡張することはメリットがあるが、課題選定委員会やレフェリーに研究会から委員を推薦している立場から、課題選定に関わる業務の負担が増えるデメリットもある可能性が指摘された。

・ユーザーの裾野を広げるために新規・潜在的ユーザーの開拓は重要であり、今後も引き続き進めていく必要がある。新規ユーザーの定着という点では、セミナーは単発ではなく、定期的に行った方が良く、開催にあたっては、宣伝が重要であるとともに、対象となる物質や手法、開拓するユーザー層を絞ることが効果的と考えられる。